



桂浜(龍馬像)

桂浜は多くの観光客が訪れる高知屈指の景勝地。浜辺から見る月の美しさから、『月の名所は桂浜』とよさこい節でも詠われている。また、桂浜には、「坂本龍馬像」が建っており、龍馬とともに雄大な太平洋を眺めることができる。



坂本龍馬誕生地

1835年11月15日、坂本龍馬は、父坂本八平直足、母幸の次男として、高知市上町で生まれる。上町には誕生を記念した誕生碑が建っており、毎年、誕生日である11月15日には誕生碑の前で、龍馬誕生祭が開催されている。



龍馬の生まれたまち記念館

龍馬が生まれ育った高知市上町に開館。「福井市立郷土歴史博物館」とは姉妹友好館提携を結んでおり、龍馬が土佐藩を脱藩するまでの少年、青年時代のエピソードを中心に映像や模型などで分かりやすく紹介している。

高知市田中良助旧邸資料館

坂本龍馬が実際に訪れたことのある建物のうち唯一現存しているのが、高知市北部の山間にある、田中良助の旧邸。坂本家の領地を管理していた田中家の邸宅に龍馬はよく訪れ、良助と狩りや将棋を指して楽しんだ。また近くにある八量岩によく登り、遥か遠くに広がる太平洋を眺めながら将来について語ったといわれている。



高知

高知城



土佐藩主 山内容堂

龍馬の故郷、高知土佐藩の藩主山内容堂と福井福井藩の藩主松平春嶽は、ともに幕府の重鎮として幕末の四老侯と呼ばれ、信頼の絆に結ばれた盟友でもあった。そして、現代の高知と福井は、ともに自然と山海の幸に恵まれ、見どころも満載。

龍馬ゆかりの二つの地を巡り、歴史ロマンを五感で感じる旅に出かけよう！



福井藩主 松平春嶽

福井

養浩館庭園



龍馬と福井

ヤー話すことが山ほどあるぜよ！



新しい未来
いまの時代、自分からアピールしなきゃ！
福井市

日本の夜明けを
夢見た男を支え、
ともに新しい国造りに
力を尽くした
福井藩の人々がいた。

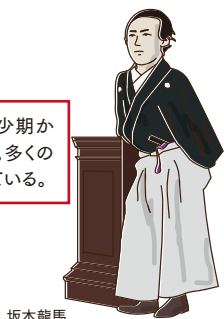


福井→高知の交通アクセス

■JR
JR新大阪駅乗換 約5時間半
JR京都駅乗換 約6時間
JR福井駅(特急サンダーバード)→
JR京都駅またはJR新大阪駅(山陽新幹線)→
JR岡山駅(土讃線)→JR高知駅

■JR+高速バス
JR新大阪駅乗換 約5時間半
JR京都駅乗換 約6時間
JR福井駅(特急サンダーバード)→
JR新大阪駅→大阪駅JR高速BT(高速バス)→
高知駅バスターミナル

■車
舞鶴若狭自動車道利用の場合の
走行時間 約6時間
福井IC(北陸自動車道)→
敦賀JCT(舞鶴若狭自動車道)→
福崎JCT(播但連絡有料道路)→
山陽姫路東IC・JCT(山陽自動車道)→
水島IC(瀬戸中央自動車道)→
坂出JCT(高松自動車道)→
川之江JCT(高知自動車道)→南国IC(高知市到着)



坂本龍馬

龍馬の故郷であり、幼少期から青年期を過ごした地。多くのゆかりの地が今も残っている。

福井市の問い合わせ先
福井市おもてなし観光推進課
☎0776-20-5346



高知市の問い合わせ先
高知市観光振興課
☎088-823-9457



／福井と高知の美味くらべ／

福井



越前がに
毎年11月6日に漁が解禁されるズワイガニの雄は、黄色いタグがブランドの証。甘みが詰まった身と濃厚な味噌は、一度食べたら虜になる味わい。



羽二重餅

明治初期頃、絹織物「羽二重」の一大産地となった福井。その高級感・きめ細かさを菓みに凝縮した「羽二重餅」。県外への手土産にも人気。



水ようかん

全国的に夏菓子の「水ようかん」は、福井では冬が旬！シンプルで瑞々しい味わいは県民の「心のふるさと」。こたつで食べる冬の銘菓。



越前おろしそば

良好な育成環境に恵まれ、香り高いソバが収穫できる福井。大根おろし・ネギ・鰹節でいただく「越前おろしそば」は、福井人が愛するふるさとの味。



ソースカツ丼

きめ細かいソバ粉でカラリと揚げたカツに、甘辛いソースがたっぷりの「ソースカツ丼」。香ばしいソースの香りがたまりません。福井人のソウルフード。



かつおのたたき

新鮮なかつおの表面をサッとあぶり、薬味をたっぷり添えて味わう土佐料理の代表格。あぶった皮目は香ばしく、内側はレアでトロトロ食感の漁師料理。



いもけんぴ

芋を棒状に切って油で揚げ、砂糖をかきつけた郷土菓子であり、高知発祥の呼び名。土佐人にとっては子どもの頃から食べ親しんできたお菓子。



皿鉢料理

恵まれた山の幸、海の幸を贅沢に盛り込んだ大皿料理。食べたいものを好きなだけ小皿にとって食べる、高知ならではの自由な料理スタイル。

高知



田舎寿司

柚子酢を効かせたにぎり寿司や詰め寿司など、山間部に伝わる郷土料理。高知でとれる山の幸がふんだんに使われ、色や旬を楽しみながら食べる行楽寿司。



ぼうしパン

県民食として多くの人に愛されている逸品。表面はほんのり甘くてサクサク食感。中はふんわり。見た目もキュートな高知のご当地パン。

龍馬が夢見た 新国家と 福井藩

―出会いと交流の足跡―

龍馬の人生を変えた出会い

文久2年（1862）閏8月頃、龍馬は福井藩16代藩主松平春嶽（まつだいらしゅんがく）との面会を求めて江戸の福井藩上屋敷を訪ねている。この時には会うことが叶わなかったが、同年12月5日、龍馬は初の面会を果たし、春嶽へ大坂湾近海の海防策を論じている。

この後、龍馬は春嶽の紹介状により勝海舟に弟子入りし、文久3年（1863年）5月には、海舟の使者として福井に赴き、神戸海軍操練所および勝塾の設立資金の借用（説には五千両とも）を行っている。



坂本龍馬
（写真は個人蔵）

福井との 繋がりに関する年表

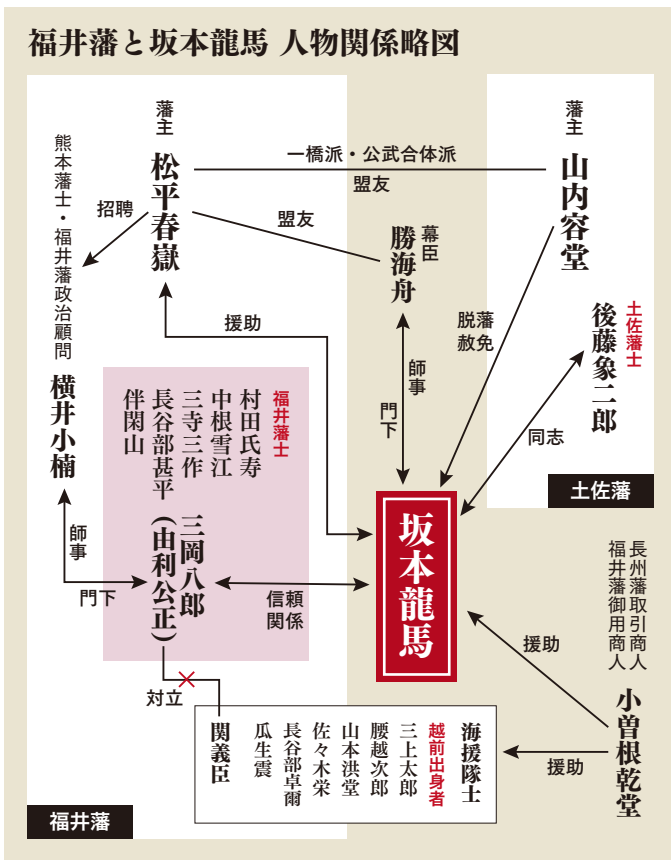
- 文久2年（1862）
 - 7月／松平春嶽 幕府の政事総裁職に就任
 - 閏8月頃／坂本龍馬が春嶽に面会を求め、江戸の福井藩上屋敷に訪ねるも会えず
 - 12月／坂本龍馬 江戸上屋敷で春嶽に面会、春嶽に大坂湾近海の海防策を論じる
- 文久3年（1863）
 - 5月／坂本龍馬が勝海舟の使いとして福井を訪れ、横井小楠・三岡八郎（由利公正）を訪問
- 慶応3年（1867）
 - 11月／坂本龍馬が再び福井を訪れ、三岡八郎の新政府出仕を願う（越行の記）
- 慶応2年（1866）
 - 1月／坂本龍馬の尽力により薩長同盟成立、伏見の寺田屋で幕吏に襲われ負傷（寺田屋事件）
 - 12月／徳川慶喜 第15代将軍となる

福井とのつながりを姉に自慢

龍馬はかなりの筆まめで、現在140通余りの手紙が残っている。そうした手紙の中で姉の乙女（おとめ）に送った文久3年（1863）6月29日付の手紙（日本を今一度せんたくいたし申候）の有名な文言が書かれている。

龍馬と福井の仲間たち

龍馬は春嶽の信頼が厚い福井藩士たちとも幅広い人脈を築いていた。その中には、三岡八郎（由利公正）や中根雪江、村田氏寿など、明治新政府に出仕した人物が多かった。龍馬にとって福井藩とのつながりは、非常に大切なものだった。直前の最後の旅となったのだった。



龍馬ゆかりの地 福井市内めぐり



7足羽川（あすわがわ）
福井市中心部を流れる川。由利公正居宅跡に近い幸橋南詰の上流側には龍馬の歌碑がある。
福井市毛矢1丁目
JR福井駅から徒歩10分



3真屋旅館跡（たばこや）
龍馬の最後の旅となった福井で滞在した旅館。三岡八郎（由利公正）と新政府の構想を熱く語り合った。建物は明治期の大火で焼失。
福井市照手1丁目14-3
JR福井駅から徒歩15分



5横井小楠寄留宅跡
福井藩の政治顧問となった横井小楠が寄留した家の跡。龍馬はそこから小楠とともに、三岡八郎（由利公正）の家を訪ねたとされる。
福井市中央3丁目
JR福井駅から徒歩10分



6由利公正邸跡
龍馬が訪問した三岡八郎（由利公正）の家は、明治末の河川改修で消失。家の場所は現在の川の中にあたり、石碑が堤防に建っている。
福井市毛矢2丁目-1
JR福井駅から徒歩10分



3福井城址
神戸海軍操練所ならびに勝塾設立の資金調達関係で龍馬が来福し、福井城で藩主松平春嶽に謁見。石垣や堀、復元された御廊下橋が往時を物語る。
福井市大手3丁目
JR福井駅から徒歩5分



4内堀公園 旅立ちの像
福井城址の堀のほとりに建つ三岡八郎（由利公正）（左）と横井小楠の像。1858年冬、二人が九州へ旅立ち姿を表現したもの。
福井市大手3丁目
JR福井駅から徒歩4分



1養浩館庭園（ようこうかん）
福井市立郷土歴史博物館に隣接する、越前松平家の別邸。「養浩館」の名は明治17年に松平春嶽が命名。
福井市宝永3丁目11-36
JR福井駅から徒歩15分



2福井市立郷土歴史博物館
越前松平家の史料を主に展示する「松平家史料展示室」ほか、幕末の福井藩関連の史料も豊富。龍馬ファンなら必見の博物館。
福井市宝永3丁目12-1
JR福井駅から徒歩15分

福井藩人物列伝

龍馬の良き理解者たち

龍馬と福井藩、それは才能を認め合い、強い信頼の絆で結ばれた人々との関係に他ならない。藩主松平春嶽は資金援助だけでなく、土佐藩主山内容堂に龍馬の脱藩罪の赦免も要請。また、龍馬は来福した際、投宿した真屋旅館に龍馬を訪ねた三岡八郎に「話すことが山ほどあるぜよ」と叫んだと伝わる。

藩の財政を見事に立て直し、国際社会を見据えた明君

第16代福井藩主 松平春嶽（慶永）

文政11年（1828）、田安德川家当主の八男として誕生。数え年11歳で越前松平家に入り、第16代越前福井藩主となる。12代将軍徳川家慶から「字を賜り慶永」を諱とした。

藩政においては、福井藩士の村田氏寿・中根雪江・橋本左内・三岡八郎（由利公正）、政治顧問として招聘した熊本藩士の横井小楠らと藩政改革を先導。身分を問わず有能な藩士を登用し、殖産興業を盛んにして、困窮していた藩の財政を立て直しに成功。藩校「明道館」（藤島高校の前身）の創設や洋式兵制の導入、除痘館の設置などにも力を注いだ。

一方、幕政では政事総裁職や京都守護職を務め、明治新政府では内国事務総督、大蔵卿などを歴任。元号制定の際には、春嶽が新しい年号の候補を出した中から「明治」と決定された。

龍馬が認めた 卓抜な手腕



非凡な才で国家の基盤を築く

福井藩士 三岡八郎（由利公正）

文政12年（1829）、福井藩の中級藩士の子に生まれ、19歳のとき熊本藩士横井小楠の「経世済民」の思想に傾倒。小楠のもとで財政改革に着手し、倭約による引き締めではなく、藩札の発行による資本をもとに領内の生糸を他国に売るという、画期的な手法で藩の経済再建に成功した。

こうした八郎の手腕を知った龍馬は、来福の折に八郎と親交を深め、新しい国家の役人に八郎を推挙。八郎に絶大な信頼を寄せる関係となる。

明治新政府になると八郎は御用金穀取扱方に就任。火の車であった明治新政府の財政を日本初の全国通用紙幣「太政官札」の発行で補った。また、五箇条の御誓文の原案作成に携わったほか、東京府知事、元老院議員などを歴任。非凡な才能を中央でも遺憾なく発揮した。

福井藩士 村田氏寿

安政2年（1855）、橋本左内とともに藩校「明道館」に出仕し、講究師となる。熊本藩士横井小楠の招聘に尽力し、その際に西郷隆盛とも親交を持つ。春嶽が政事総裁職に就くと、公武合体運動や国事に奔走。龍馬が来福した折、幽閉中の三岡八郎（由利公正）との対面を許す。版籍奉還後は、福井藩権大参事心得・大参事となり、廃藩置県後は福井県参事、岐阜県令、内務大丞兼警保課の職に就き、日本の警察制度の創設に尽力した。

福井藩士 中根雪江

藩主松平春嶽の教育係、側近。春嶽の藩政改革や幕政における参謀として活躍。將軍継嗣問題、公武合体運動などの推進力となる。藩藩上洛計画では慎重論を持して、横井小楠ら積極推進論派と対立して失脚した後、再び職に復帰するも4カ月で辞す。龍馬暗殺の5日前、龍馬が雪江に宛てた書簡には「新国家」の文言が記されている。春嶽の業績を忠実にまとめた『昨夢紀事』『再夢紀事』『奉答紀事』など、多くの記録を残した。

元福井藩士 関義臣（山本龍次郎）

藩校「明道館」や江戸の昌平坂学問所に学ぶ。福井藩の重臣であった府中領主の本多家に仕える。その後、福井藩の探索方として活躍。後に龍馬の亀山社中、海援隊に加わる。由利公正と対立関係になり、明治2年（1869）、本多家の家格問題に端を発した武生騒動において連座し投獄される。維新後は大阪府権判事、徳島県知事、貴族院議員などを歴任し、明治40年（1907）には、男爵に列した。